

離島の地域包括ケア

— 隠岐・西ノ島町の取り組みから

大阪大学教授
斉藤 弥生 (さいてい やよい)

要点

- 文化と資源を活かした地域独自の地域包括ケアがあることを学ぶ。
- 高齢化率四六%を超える離島の取り組みから、二〇四〇年に日本社会が直面する超高齢社会とその課題を考える。

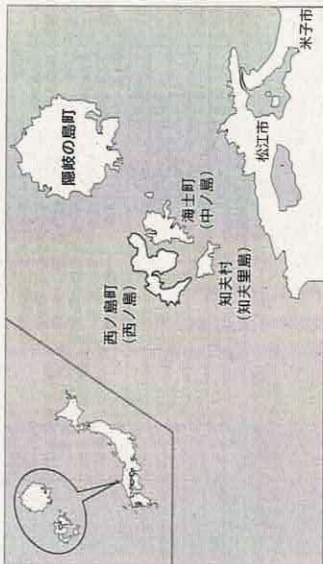
「隠岐諸島・西ノ島町(島根県)の医療と福祉」

多くの離島では二〇四〇年の超高齢社会を今、経験しています。島根県の沖合に位置する隠岐諸島は四島から成り、それぞれに隠岐の島町、西ノ島町、海士町、知夫村の小さな町村があります(図1)。基幹産業は漁業と農業ですが、島の豊かな自然は「ユネスコ世界ジオパーク」に認定され、観光産業にも力が入れています。

今回、取り上げる西ノ島町は医療・看護・介護の連携で注目される自治体の一つです。西ノ島町の人口は二七八八人、高齢化率四六・二%

(二〇二〇年)で、町人口ピクシオンでは二〇四〇年の人口は二二五四人、高齢化率は三八・一と推計しており、今が高齢化のピークです。

西ノ島町の医療・福祉資源には、隠岐広域連合立隠岐島前病院(四四床)、浦郷診療所、特別養護老人ホーム和光苑(四〇床)、養護老人ホームみゆき荘(五〇床)で内訳は西ノ島町三〇床、海士町一五床、知夫村五床、小規模多機能型居宅介護、ほかに居宅介護支援、訪問介護が二か所ずつ、通所介護が二か所あり、二つの社会福祉法人と社会福祉協議会(社協)が担っています。介護保険の保険者は隠岐広域連合です。



【図1】 隠岐諸島(島根県)の島町、西ノ島町、海士町、知夫村)

地域組織化の底力

— 西ノ島町社会福祉協議会

廃校になった小学校の1教室が西ノ島町社協の事務所です(写真1)。廃校になった旧美田小学校の建物を残したいという住民の声で、社協は二〇一六年にここに引っ越してきました」と事務局長の平木みゆきさん。一九二五年築で、映画に出てきそうな美しい木造建築の建物です。

西ノ島町には一五地区があり、各地区に民生委員がいます。「地区は地域福祉実践の単位です。約半数の地区で「まめな体操」が週一回行われ、高齢者クラブ、会食グループ、茶話会等の独自サロン活動等も地区ごとに行われています。また地区を越えて約二〇のボランティアや趣味のグループが活動しています。一五地区の区長は社協評議員会のメンバーで、社協は高齢者の日常生活に深く関わっています(写真2)。

「高齢者は活発で、釣りや畑仕事でみんな忙しい。九〇歳代で初めて介護保険申請という方が結構多く、皆さんお元気です」と平木さん。社協の活動に加えて、介護予防と呼ばない、介護予防が自然に行われています。

活発な高齢者の活動は、社協による地域組織化に支えられています。地区の福祉活動やその他ホ

ランティア活動は事務局をもち、共同募金の配分金から年間五・五万円が活動費が支給されます。住民は所属するグループに登録しています。

「高齢者を支える生活支援サービス」

介護保険制度の「総合事業」も別の形、つまり、町の受託事業として社協が行っています。

「ヘルパーはつとサービス事業」は社協独自の事業で、制度枠内で対応できない生活援助等を社協ヘルパーや社協職員が一時間六〇〇円で支援します。入院中の家族の洗濯物、要支援者の乗の受け取り等の支援が行われています。

「配食見守りサービス事業」は町の受託事業で、一食五〇〇円で夕食用の弁当を配り、安否確認を行います。要介護者は週五回、要支援者は週三回の利用が可能です。

社協の厨房では五〇〜七〇歳代の方々が九人、非常勤調理員として、二時半から一五時半までの三時間で、平均三五食の弁当を作ります。ユニークなのは運営方法で、三人ほどの配達ボランティアが活躍しています。夕方には、定年退職後の男性たちを中心とした運転ボランティアが弁当を受け取り、各地区に配達します。謝礼は弁当一個につき五〇円(ガソリン代は別途支給)。坂道が多い地区では、いったん地区集会所

※1 ユネスコ世界ジオパーク

国際的に価値のある地質遺産を保護し、自然環境や地域文化への理解を深め、自然と人間との共生および持続可能な開発を実現するためのユネスコの事業。世界四八か国、一九五地域が認定され、日本からは一〇地域(隠岐、洞爺湖有珠山等)が登録(二〇一三年五月二四日現在)。

※2 隠岐広域連合

一九九九年に島根県と隠岐島四町村を構成団体として設立。介護保険事業、隠岐病院・隠岐島前病院、救急医療対策事業、広域消防事業、障害者支援施設事業、隠岐航空フェリー、超電導船の設置、管理運営等に関する事務を行う。



【写真1】 西ノ島町社会福祉協議会は廃校になった小学校の中に(撮影:斉藤)

に運び、そこからボランティアが歩いて弁当を届けます。この活動は九〇年代に始まり、当初はボランティアが弁当も作っていたそうです。

力を入れている活動に「地域応援隊」があります。住民の助け合い活動や町づくりに協力できる人を募り、庭掃除、電球交換、買い物、簡単な家事等の希望者につなぎます【写真3】。

「社協からホームヘルパーは行くし、往診もあるし、訪問看護は二四時間対応。『最期は家の布団で』と希望すれば、皆で連携して看取りもします」と平木さん。社協の介護と共に、在宅医療を支えているのが隠岐島前病院と診療所です。

本人が望めば最期は家で看取る
— 隠岐島前病院

隠岐島前病院【写真4】は島前地域（西ノ島町・海士町・知夫村）の中核病院で内科、小児科、外科外来をもち、産婦人科、耳鼻科、眼科、精神科、整形外科はパート診療で行っています。常勤医師九名、看護師二六名、作業療法士四名、理学療法士二名等が働いています。浦郷診療所（西ノ島町）、知夫診療所（知夫村）に医師を派遣し、電子カルテで患者情報を共有しています。緊急時には患者を島根県の防災ヘリやドクターヘリで、対岸の松江市や出雲市の病院に移送します。

「地域ケア会議」は五年前から

「ここでは五年前から二〇二五年問題に取り組んできた」というのは、前院長の白石吉彦さん。白石さんは二年前から、島根大学で総合診療医の育成の仕事にも尽力されています。

「二五年前、ここに来たときは三二歳。当時は一人で三〇件の往診をしていた。人工呼吸器をつけ二四時間必死で診て、命を取りとめた高齢者の家を訪ねたら、老老介護で寝たきりに。ホームヘルパー、老人ホームやデイサービス職員に、『集まって話をしませんか』と声をかけました。今で言うところのケース検討会議、地域ケア会議の始まりです。二〇〇〇年の介護保険制度開始後も、しばらくこの「井戸端会議」で司会と書記も務めました。地域包括支援センターができ、すべてを引き継ぎました」と白石さん。

「三四歳で院長になったとき、まず先に訪問看護が患者宅に向くようにし、往診三〇件も医師で分担しました。専門職のみんなが病棟と在宅で患者に関われるようにという、「地域包括ケアシステム」の先取りです」

隠岐島前病院で働く看護師も、リハビリ職も半数が島外出身の「インターン」者です。ミャンマー、ラ

オス等の途上国での勤務経験のある看護師もいます。医療人材不足の途上国では、看護師は医師と対等な関係で、主体的に働けると感じる人が多いと言います。主体性があり意欲的な看護師は、離島の医療では欠かせない人材で、即戦力です。隠岐島前病院では二〇年以上も前から島外に優秀な人材を積極的に求めてきました。

「うちの看護師は病棟、外来、訪問、すべてで看護を経験する。赤ちゃんから高齢者まで、急性期も、慢性期も、認知症も、ここでは全部看れないとならないから。医師に総合診療医があるように、看護師もそれを目指したい」と看護部長の家中ふみ代さん。看護職もリハビリ職も通所、病棟、訪問のすべてに対応できます。

隠岐島前病院では要介護者については退院前に必ず担当者会議を行い、主治医、ケアマネジャー、看護師、リハビリ職等、全関係者が顔を揃えます。在宅生活で主役となる患者自身や家族も参加します。家族が遠方にいる場合はリモート会議も行います。退院前にリハビリ担当者が、患者宅を訪問し、必要な住宅改修を行うので、スムーズに在宅生活が始まります。

一〇年ほど前から、看護師は退院後訪問を行っています。退院後の患者の暮らしを見ることが自分たちの看護を振り返り、元気がもらえます。

「末期がん患者で痛み止めの医療用麻薬を使う人、点滴が必要な人、呼吸器をつけている人でも本人が希望すれば家で過ごせます。病棟でやっていることを家でもする。本土の病院で大手術をした人でも、『島に帰りたい』と言えれば私

たちは絶対に受け入れる」と家中さん【写真5】。

「住み慣れた島で最期まで暮らせるために」

「認知症等で、一人暮らしが困難な軽度者（要介護2以下）への対応が課題」と、町健康福祉課課長の富谷和明さんは言います。都市部では、費用負担ができる高齢者はサービス付き高齢者向け住宅への入居が増えています。西ノ島町では一人暮らしが困難な軽度者のための住まいについても考えています。養護老人ホーム三〇床を利用していますが、制度上、課税世帯は利用できません。島にある小規模多機能型居宅介護では、夜間の人手がなく、「泊まり」ができません。建物の老朽化への対応、限られた数の人材が効率的に生き生きと働けるよう、現在、西ノ島町の将来を見越した総合ビジョンの策定が行われています。西ノ島町には住民参加と専門職の熱意による、島独自の包括ケアが長い年月をかけて築かれています。



【写真2】高齢者サロン「日向暖来」の光景
(提供：写真2・3とも西ノ島町社会福祉協議会)



【写真3】「地域応援隊」が高齢者宅を訪問



【写真4】離島の人の命を守る「隠岐島前病院」
(提供：斉藤)



【写真5】患者を囲み、薬剤師、看護師、作業療法士とお花見に——多職種チーム医療
(提供：隠岐島前病院)